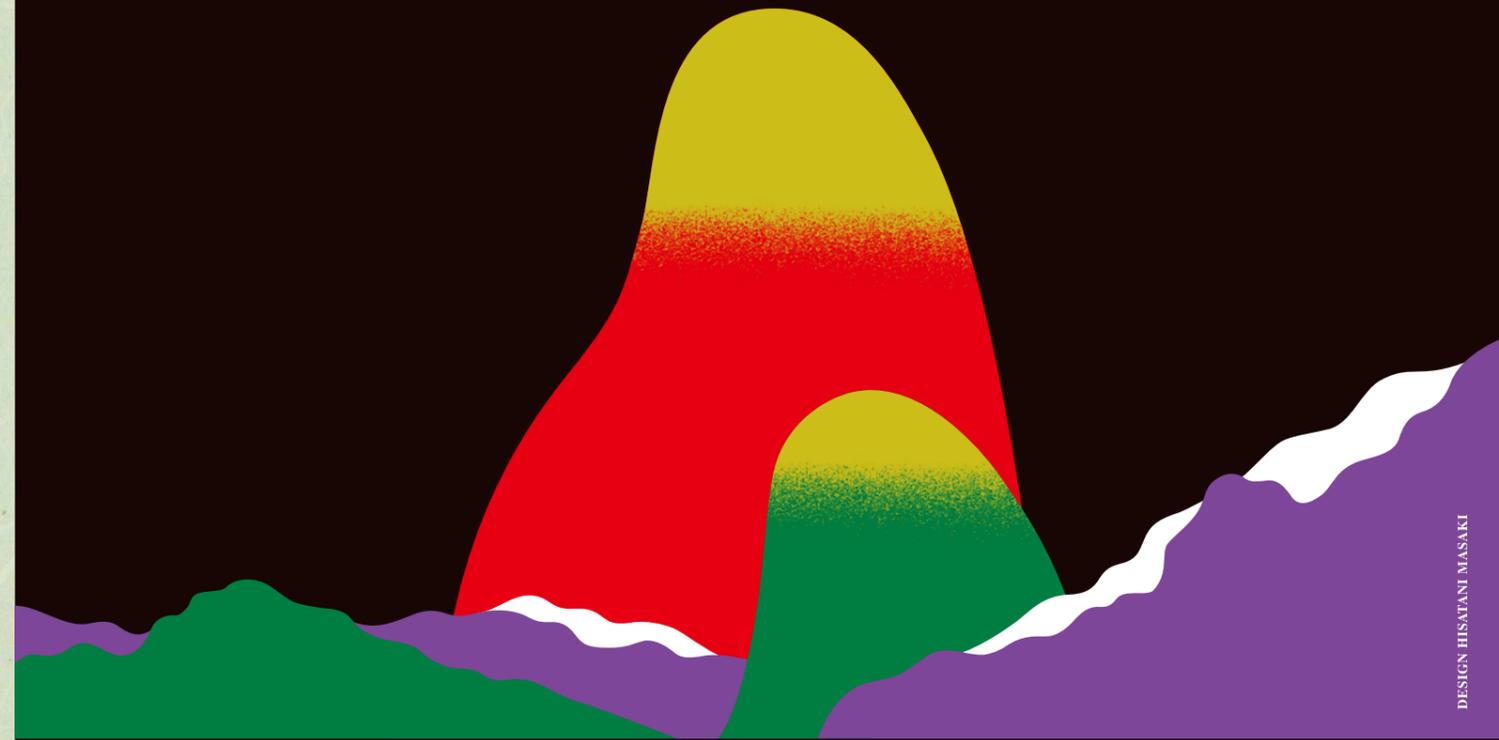
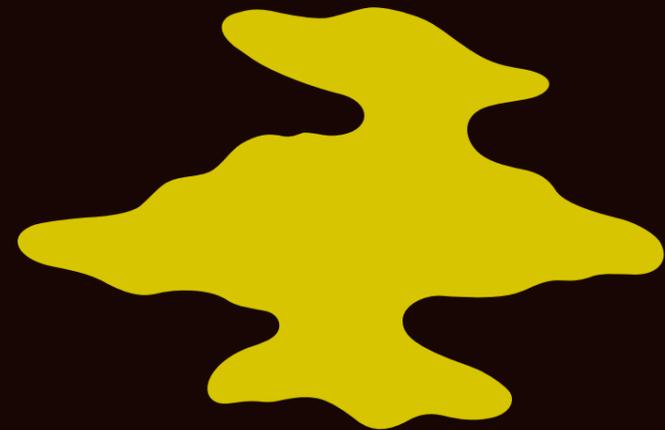


古典の日フォーラム2021

11月1日(月) 13時~16時
京都劇場(京都駅ビル内)



DESIGN HISATANI MASAKI

主催：古典の日推進委員会

共催：NHK京都放送局

後援：京都新聞

助成：令和3年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

■コロナウイルス感染予防対策

- ・こまめな手指の消毒とマスクの着用をお願いします。
- ・体調不良をおこされた場合はお申し出ください。
- ・場内での会話は、できるだけ控えください。



「古典の日」宣言

『源氏物語』は日本の古典であり、世界の古典である。

一千年前、山紫水明の平安の都に生まれたこの作品は、文学はもとより美術、工芸、またさまざまな藝能に深い影響を及ぼし、日本人の美意識の絶えることない源泉となってきた。一九三〇年代に英訳されて以来、近年では二十余の外国語に翻訳されて、世界各地の人々に愛読され、感銘を与えている。

この物語について、『紫式部日記』に記された日から数えて一千年。この源氏物語千年紀を言祝いで、私たちは、今後十一月一日を「古典の日」と呼ぼう。古典とは何か。

風土と歴史に根ざしながら、時と所をこえてひろく享受されるもの。人間の叡智の結晶であり、人間性洞察の力とその表現の美しさによって、私たちの想いを深くし、心を豊かにしてくれるもの。いまでも私たちの魂をゆさぶる。「人間とは何か、生きるとは何か」との永遠の問いに立ち返らせてくれるもの。それが古典である。

揺れ動く世界のうちにあるからこそ、私たちは、いま古典を学び、これをしっかりと心に抱き、これを私たちのよりどころとして、世界の人々とさらに深く心を通わせよう。

そのための新たな一歩を踏み出すことを、源氏物語千年紀にあたって、私たちはここに決意する。

紫のゆかり、ふたたび。

平成二十年(二〇〇八年)十一月一日

源氏物語千年紀よびかけ人

源氏物語千年紀委員会

古典の日に関する法律(平成二十四年九月五日 法律第八十一号)

(目的)

第一条 この法律は、古典が、我が国の文化において重要な位置を占め、優れた価値を有していることに鑑み、古典の日を設けること等により、様々な場において、国民が古典に親しむことを促し、その心のよりどころとして古典を広く根づかせ、もって心豊かな国民生活及び文化的で活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「古典」とは、文学、音楽、美術、演劇、伝統芸能、演芸、生活文化その他の文化芸術、学術又は思想の分野における従来の文化的所産であつて、我が国において創造され、又は継承され、国民に多くの恵沢をもたらすものとして、優れた価値を有すると認められるに至つたものをいう。

(古典の日)

第三条 国民の間に広く古典についての関心と理解を深めるようにするため、古典の日を設ける。

2 古典の日は、十一月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、古典の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

4 国及び地方公共団体は、前項に規定するもののほか、家庭、学校、職場、地域その他の様々な場において、国民が古典に親しむことができるよう、古典に関する学習及び古典を活用した教育の機会の整備、古典に関する調査研究の推進及びその成果の普及その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。



司会：福田まゆみ(フリーアナウンサー)

13:00 開式

第1部

画楽交響「横山大観 ～生々流転～」 曲目 ロッシーニ 弦楽ソナタ第2番イ長調
船岡陽子ヴィルトゥオージデルカント

「古典の日」宣言 第12回古典の日朗読コンテスト 橋本 夏果
【中学・高校生部門】大賞受賞者

主催者挨拶 古典の日推進委員会会長 村田 純一

来賓祝辞 文化庁長官 都倉 俊一

講演「西行・長明・定家の見た源平の争乱」 成蹊大学名誉教授 浅見 和彦

14:25～14:35 休憩

第2部

転換期に読む『平家物語』～能楽と語りとともに～
コーディネーター 安田 登(能楽師)

I 解説と朗読 安田 登 × 琵琶演奏 塩高 和之

II 半能「忠度」 金剛 龍謹(能楽金剛龍若宗家)

笛 左鴻泰弘 小鼓 曾和鼓堂 大鼓 河村大

後見 豊嶋幸洋

地謡 種田道一 宇高竜成 山田伊純 惣明貞助

16:00 終演

※プログラムは予告なしに変更する場合がございます。
※ホール内での飲食、携帯電話のご使用はご遠慮ください。

※許可のない写真撮影、録音・録画は禁止いたします。
※他のお客様に迷惑となる行為を発見した場合、退場していただくことがあります。

出演者プロフィール

(敬称略)

画楽交響 「横山大観 ～生々流転～」

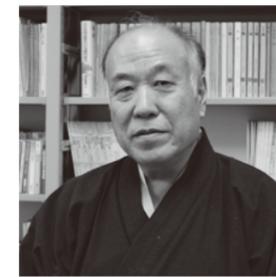
ロッシーニ 弦楽ソナタ第2番イ長調 船岡陽子ヴィルトゥオージデルカント(Virtuosi del Canto)
辻井 淳(第一ヴァイオリン・京都市交響楽団元コンサートマスター) /
森園 ゆり(ヴァイオリン) / 宇田川 元子(チェロ) / 森園 康一(コントラバス)



1985年、芸術祭参加により「船岡陽子ピアノ五重奏団」を結成。「音」そのものに対する独自の演奏スタイルを確立し、室内楽分野において各地で芸術作品演奏を披露する。弦楽メンバー「ヴィルトゥオージデルカント」においては、2007年より2011年の4年間、シリーズにて各地で「ロッシーニ弦楽ソナタ全曲」演奏会を開催。「弦楽器の持つ自然な響きを如何に忠実に引き出すか」をテーマに更なる演奏スタイルを確立し展開している。2012年「ロッシーニ弦楽ソナタ全6曲」CDリリース。2013年「レコード芸術準推賞」を受賞。

講演「西行・長明・定家の見た源平の争乱」

浅見 和彦 (成蹊大学名誉教授)



1947年生。成蹊大学名誉教授。専門は日本古典文学、地域文化論、環境日本学。高尾・浅川の自然を守る会の会長も務める。主な著書、共著に「方丈記」(ちくま学芸文庫)、「発心集」(角川ソフィア文庫)、「日本古典文学・旅百景」(NHK出版)、「東国文学史序説」(岩波書店)、「日本文学気まま旅一その先の小さな名所へ」(三省堂)など。

転換期に読む『平家物語』～能楽と語りとともに～

I 解説と朗読 安田 登 × 琵琶演奏 塩高和之

安田 登 (能楽師・ワキ方下掛宝生流)



日本や海外の能の公演に出演。また神話『イナナノ冥界下り』でのヨーロッパ公演や、金沢21世紀美術館での「天守物語(泉鏡花)」、『芸能開闢古事記』など、能・音楽・朗読を融合させた舞台を数多く創作、出演する。100分de名著『平家物語』講師・朗読。著書多数。関西大学特任教授(総合情報学部)。

塩高 和之 (琵琶奏者・作曲家)



文化としての琵琶楽を標榜し、伝統的な雅楽古典曲から薩摩琵琶の現代曲まで幅広く琵琶楽を捉え、作曲・演奏の両面に於いて国内外で活動をしている。シルクロードの国々へのコンサートツアーを開催する他、設立した琵琶楽人倶楽部は、14年間に渡り、160回以上のレクチャーコンサートを行っている。

II 半能「忠度」

金剛 龍謹 (能楽金剛流若宗家)



1988年、二十六世宗家金剛永謹の長男として京都に生まれる。幼少より、父・金剛永謹、祖父・二世金剛巖に師事。5歳で仕舞「狸々」にて初舞台。自らの芸の研鑽を第一に舞台を勤めながら、大学での講義や部活動の指導、各地の学校での巡回公演など学生への普及活動にも取り組む。2012年に発足した自身の演能会「龍門之会」をはじめとして、京都を中心に全国の数多くの公演に出演。同志社大学文学部卒業。京都市立芸術大学非常勤講師。公益財団法人 金剛能楽堂財団理事。

〈「忠度」解説〉



藤原俊成の御内の者が出家して、摂津国須磨浦まで来ると、薪に花を折り添えて背負った老人が桜の木蔭に花を手向けて帰ろうとするのを呼びとめ、老人に一夜の宿を乞う。老人は、この花の蔭にまざる宿はないだろうと言い、この桜は平忠度の跡の標に植えられたものと教える。

僧が花の蔭に旅寝すると、夢中に忠度の亡霊が出現し、「行き暮れて」の歌を読人不知とされたことが妄執の中の第一と嘆じ、俊成の子の定家に作者名を付けてくれるよう話してくれと頼む。そして都を落ち、須磨の海岸で岡部六弥太と戦い、ついに六弥太に首を打たれて果てる経過と、六弥太が簾に付けられた短冊の歌を見て、忠度であることを知る條りを物語った後、跡を弔われんことを願う。

今回は、後半部分のみの上演となります。